大正十二年十二月二十四日第三種郵便物認可每月一回十五日發行
大正十四年六月十日印刷納本 大正十四年六月十五日發行

光

第四十二輯

大正十四年六月

◆日の皇子をおがみて……西田天香

◆外人の觀たる一燈園の生活……ブレールス、フォード

◆社會淨化としての懺悔の生活……住田蓮車

◆みゝずの家……石川三十雄

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願 不二の光明によれる生活
費用 供養されたる淨財

◆闇より出でて……野田清一

◆香園寺便り……まさる

◆クリスト教社會主義史（五）……松下吉衞

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

內外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆俱成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天國、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戯三昧に過ぎず。憾むらくは個中の消息、もとよく言辭の髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその淸規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

日の皇子おがみて

西田天香

五月十六日第三土曜日は神戸光友會の定集日である。末廣氏と同道十時四十分七條發の汽車に乘らふとして停車場についた時、今しも攝政宮殿下が桃山御參拜より御歸還なさるので、奉迎の人は堵列して居る、自分もこんな都合の好いことはないのを喜びお迎ひを申上た。列ぶ人々が靜まりかける、延び上り息をころしてお待ち申すと、ヲートバイが御先驅をかしこまる、次に又二臺が同じ御警護を申上ぐると、一臺の自動車の次に、赤塗の御自動車に召されて靜々と御通過になる、窓の硝子も取外されて御英姿の御すこやかさを拜して此上なき心强さを感じてゐると、やがて此方へ御顏をむけさせ給ひ、りゝしき威容に御擧手の禮をさへそへ給ふた時、自分はドシッと腹の底までひゞいた樣な氣持がした。御自動車はもはや通り過ぎ、後列のお供の車も急いで往く、澤山な奉迎の人等は或は外面へまたは停車場の内へなだれ込んだ。自分はすぐにホームに出で橋をわたり汽車に乘つたが、玆に云ひたいことはドシッとひゞいたものがまだそのまゝあつて、何となく眼をうるませ、こみあげるやうにうれし淚が出ることである。そう泣き味噌でもない自分が、何が故にかく胸一ぱいになるのであろうか、それを少し調べて見たい。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

第一胸にうかむことは、『日の皇子』と云ふ言葉によつてあらはされる直覺である。誰れが日の皇子といひ出したか、何の道理かは詮義立をせいでもよい。如何にもしつくり我國の皇子を御呼び申すに落付のよい言葉でないか。天御中主とか申す氣持ち、天照大神とかよふ感情、何だか久遠な、または地より湧き出で天より降りませし樣な、ゆるぎなき感じを起こさせるのと同調のもので難有い。今やあまりに現實に人間味をさらけだして、人の心のうちにひそめる『おひかり』を無視し、やゝともすれば各人互にさげすみあひ獸性になり下ろうとするとき、『日の皇子』なる言葉で呼ばせてもらふ、自分等の心情に限りなき深い床しさを感じるのである。是は勿論月並の皇室崇拜の心ではない、形式でもなく禮儀でもない。世の中は現代の物質文明が感じさすやうな低級な下品なものでないと思ふ＝そうありたいと願ふ自分等の心の底から湧き出る直覺そのものである。其心淨ければぞ佛土淨しと維摩經にいふてある。『日の皇子』とまことに拜む心には矢張『日の皇子』の神韻は通ふてある。そうしてそれは遠い／＼深い／＼奥床しいものである。それは即『おひかり』である『おひかり』といひたい氣持の品性を此肉體のうちより呼び起すこととなうて、現代の半獸性の文明の往きつまりは淨化されないと信ずる自分は、『日の皇子』とよぶときにその世界を現出する。氣のせいか知れないが大統領とよんでも大總統と書いても、一寸同じ感じが出てこない。

二十四五年前京都の御所の御苑内で、獨り芝生の上にすわつて、祈つたことがあつた。夕方のうすもやの内に浮き出たやうな御所を見て、『宮柱太しく立てゝ』とのノリトの文句を思ひ出した、すると何だか御所の建物が大地の底から湧き出てあるやうな氣持がした。大阪などの盛り場に飾電燈のパチ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

〱する高いビルデングを見るのとは何としても直覺がちがふ。建てる人の氣持ちそれを要求する時代の心に雲泥の差があるからである。その位のちがひと見るにはあまりに惜しい何ものかがひそんであろうと思はれるのである。『天御中主』『宮柱ふとしくたてゝ』などの言葉とふさわしい落付いた御所の建物を、うすもやのうちにふしおがみて、遠い深い境地に引入れられた自分のその時の氣持ちは『日の皇子』と只呼ばせてもらふことによつて、すぐに現出するのである。其時は全く一切が淨化されてある。その心にて山を見る河を見る草木を見る同胞を見る、一つとして『おひかり』ならぬはない。萬歳……とよぶ氣持ちのそれとも少しはちがう。

此萬歳……と云ふ氣持とちがふことから思ひ出すことがある。それは私が各所でお話しをさせてもらふ時毎に拍子される事が少い事である。そうして私しはそれが少しも淋しくない。のみならずうれしい。若しピシャ〱と拍手されると何だか落付がない事である。これは私の話しはまづいけれども拍手するにはふさわしくないやうな内容も預つてゐるのであると思はれる。現代的にはあまりにジミである、併し聽衆の心の底に何かの共鳴點を發見する。きいて下さる方は御自分の持ものでありながら、少しも氣の付かなんだものに出あつたやうな氣でゐられる。臺中の婦人會でお話しさせてもらふたその夜、臺灣新報の主筆の方の娘さんが私しの話しを聞いた時の感じであるといふて、その父上が話された事がある。

『きたない西洋手拭を腰にさげて田舎の無格好な人が演壇に立つた、何をあんな人が話すのかとつまらない感じで聞いてゐると、いつの間にか自分を忘れてうつとりさゝれてしまつた、まるで高い別

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

の世界へつれてゆかれた樣な氣がして、聽いてゐる他の聽衆を見ると低い〳〵地上にウヨ〳〵してゐる樣な感じがした、お話がすんでがつかりした。』とのことであつたそうだ。父上の其話しを私にきかされる時に、その娘さんはハニカンデ父上の袖を曳いて、『おとうさん云はないで下さい』と私語してゐられた事があつた。私はそれを聞いて非常にうれしい氣持がした。賞めてもらふたのを喜ぶのは當然の人情であるが、そのほめ方が演說のよしあしでなくて『高い別の世界へつれてゆかれたやうな氣がした』が嬉しかつた。あとにも先きにも私はこんな會心な批評を直接聞いたことはない。私しが演壇に立つといふ事、是は大層な脫線である。名論卓說は別に大家が澤山ある。いかに賞められても私は落付ない。けれ共此娘子の評だけは正直であつて當つてゐる。『おひかり』の新生涯は全く別の世界である。それが無邪氣に理窟なしに聞いて吳れたこの娘子の評はそのまゝ受けてよいのである。

主のイノリに『御國を來らせ給へ』とある。理窟でなしに研究でなしに又所謂智的でなしに、大自然のまゝが地上にあらわれるやうに。勿論それは現世及此地上をのみ指しまたは原始的に立かいらせるといふのではないが、今の所謂物質と囚はれた知識の世界を不二のひかりの世界にかいしたい寂光土となれかしと思ふのである。そうした願ひは、いつも何處でも何につけても、輕々敷『萬歲……』といふ樣な調子になつてしまふことに淋しさを覺える。それでは大自然としつくり一つにならぬ。もつと心の底のどてつ腹をも打抜いた樣な處から出る『おひかり』をたゞよわしたい。そうしてそれが『日の皇子』とよぶときは端的にかゞやいてくる。是には何か深い遠い神韻がなければならぬ。『何事のおわしますかは知らねども』といひたい氣持がする。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

京都では三日踊り狂ふた、銀婚式をお祝ひ申すに踊りもわるくはなからうが、如何はしい醜態をはぢずに踊りぬき、中には踊り死にしたもの迄あるとはなさけない。十二日の澤柳博士の講演には、今上陛下の一夫一婦をお守り遊ばされしことと、攝政宮殿下の禁酒禁煙を嚴守なされる事を擧げて敬讃してゐられたが、お祝ひに呑みつぶれ醜い體度に取り亂れる事を無上のたのしみとする樣ではいかにも前途が案じられる。

第二は重き御任務でおわするを端的に感じて『あゝ御苦勞樣である』とおもふたことである。年より臭いまた田舍人の月並な感じであるともおもわれもしよう。併し全くそう感じたのである。攝政の二字既に色々の御苦勞を思はせる。加ふるに思想上から見ても大過渡のとき外交上から見ても隨分難儀な場合。一昨年の御勅語中にも『或は前緒を失墮せんことを恐る』とまである深憂。震災後の國民の思想容易に質實剛堅となりそうにもなく、國難來の聲は消すべくもなく、經濟上にもあまりに危機を含むとき、御若き御體に内外の重任をおひたもふ事如何にも御苦勞樣であるとの感いと強く響くのである。然れども其御英姿を拜しては何となく心丈夫な氣に打たれ、御苦勞樣があゝ難有しとなり此間無限の感慨を高調さすのである。一瞬間の直覺に無量の喜憂を含むことこそ、正直なる自分の感じである。

第三には自分等の責任についての直覺である。それは『すみませぬ』といふ感情に盡きる。種々の點からすまない氣持ちがする。誰やらの句に『元日や一系の天子富士の山』といふがあるそうだ。句のよしあしは素人の自分は知らないでも、强い尊い感じがする。全く『一系の天子富士の山』だ。是も

私は平凡な國粹的に扱ふのではないつもり、平等と差別が不二の『おひかり』に照らされるとき、そこにはおひかりの天子おひかりの臣民、おひかりの親と子、おひかりの師と弟子があつてよい。梁や土臺ばかりで家は建たぬ、柱が同じ重要な任務をもつ。平等の思想にもその內の英雄崇拜心は必ずある。況や日の御國の日の皇室は、一切人の『おひかり』の太柱であり中心である。丁度富士が群岳を統べて雲表に聳へるやうに。富士あつて自分は嬉しい、皇室あつて自分は心強い。人類が集つて社會を構成する時、かゝる統制力しかもそれが深い眞理と權威を含むものあるは社會人としての我等の非常な幸福を感ぜずにおられぬのである。況んや皇室は常に天に誓ひ皇靈に約し無私の仁と愛を以つて臨せらるゝに於てをやである。若しも廟堂の責任者が能くその責を盡すに於ては、眞に萬世にわたりて此上なき福趾を受けるに適當である。

然るに我等が動もすれば輕卒に物質的文明及思想を取扱ふて、その不二の妙諦を忘れやうとすることがある。新らしき智識それを取入れるに後れてはならぬ、又如何なるものをも消化するまでには時もかゝるとも云へはする、けれども此頃の上すべり樣は全く度を失してゐるやうである。少しく考へて見ればすぐ分る、私は今こゝにそれを擧ぐる煩をさけるが、もつと／＼能く消化する必要があるのである。それには一度出直すほどの覺悟がゐる。これではならぬといふものもある、けれ共只それは云ふだけである。かくせねばと思ふても思ふだけである。云ひ思ひしてゐる間に、金ばへり人の心はやけになつて往く樣である。處々から燃へ上つた震災當時の火事の樣に手がつけられぬやうになりつゝあるのであるまいか。私は是はすまない事とおもふのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『光は東方より』と西洋はいふてゐる。是に對しても自重せねばならぬと思ふ。お國自慢や萬世一系をぬか喜びしよふと云ふのでない。私は『おひかり』が多量に此東洋殊に日本に澁蓄されてあつてたしかに世界に貢献する何ものかゞ埋み置かれてあるやうな感じがする、徒らに西洋の思想をうのみにせずに、もつと腹の底心の根にある『おひかり』をよび起して、その往古より付囑されたる大使命を此皇室と共に成就せねばならぬのであるまいか。そんな事を思ふと、今お互はあまりに近眼でその場逃れであるまゐか……。とこふした氣持がこみあげてきて『すみませぬ』と結晶したのであつたらしゐ。他の人のことまでを云ふてはすまぬがこの思ひは我等は、と國民として思ふたのであるから、ありのまゝを書いたのである。

以上のことの外まだ澤山に色々の事がふくまれてもあつたゞろう、けれ共これだけに止めておく。勿論第一義の世界はもつと飛躍した處にある、けれ共飛躍したとて天に昇るわけでもなく地にもぐる事でもない。すぐそれは又山高水長と歸つてくる。『おひかり』の世界は差別と平等がとゝのふてある。只今の此心のまゝでは半獸性の社會となりそうな、それをもつと崇高清淨なものにかいらせたい。物においまわされない、ゆつたりした、深みと和らぎのある世界にかいらせたい、そんな種々の感慨が『日の皇子』のたまわりし御擧手の端的に、ドシッと腹の底にこたへたのであろう。さるにても力は何でも具體化にある、沿道到る處の歡迎者に一々御挨拶はいたみ入る事ながら、如何に赤子の心をよろこばせる事ぞや。何でも事ははこばねば役に立たぬ。自分は此頃非常になまけてゐる、思ひのみ凝りて行ひにあらわれぬ、すまない事おびたゞし。

日の皇子を迎へて赤裸々の所感を陳べた。

—大正十四、五、二〇—

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

外人の観たる一燈園生活

ブレールス、フォード述
岩橋武夫氏譯

この記事は去る五月三日の朝、ジヤパン、クロニクルの記者、ブ氏夫妻が關西學院の岩橋武夫氏の案内で雨の中をわざ〳〵鹿ケ谷の一燈園まで御出でになつて、岩橋氏の通譯で、同人の爲にお話し下さいましたもの丶筆記であります。實に行き屆いた御話並に御通譯でありましたものを筆者の不文から穢したことを御詫び致します。（筆者）

私が此處に參りまして、皆さんに私の話を聞いて戴くことは、何となく不思議に考へられることであります。私共は寧ろ、皆さんの生活から學ばして戴かねばならぬ受身の立場にある者であることを思ひます。

數年前、私が外國に居ります時分或る外國新聞を通して天香師に關する短い論文を讀んで強い刺激を受けて居ました。そして何時か天香師始め一燈園の方々にお會ひして其の信念及び托鉢等に關してお尋ね致し度と思つて居りました。私が故國に居りました時に、よく友人等と共に、無所有とか、一燈園の所謂托鉢とか云ふことに關して話し合つたことがあります。然し何時も議論は同一な點に歸着したのでありました、それは不可能であると云ふことであります。然るに、今私は皆さんから、その

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

生きた實際を見せられて居るものであります。

彼のアッシジの聖フランシスは、數百年前に、天香師と同じ樣な祈禱と奉仕の生涯を送つて居られます、そのやり方は實によく似て居ることゝ思ひます。西洋に於ては之れを、讃美はするものゝ、果してそれが實行されたものであるか何うかは、信じ難いとされて居ります。然し歐洲大戰亂を境として、無明一夜に醒めたる如く、最近に至つて、フランシスの樣な、或は又一燈園の人々の樣な、斯うした生活が必要であると云ふことが、多くの人々に依つて注意される樣になりました。併しそれと同時に此の生活に入ることは、尚不可能だとされて居ります。

表現の方法はいろ〳〵と異つて居ても、結局は同一の目的を持つて居るところの、宗敎を信じて居る人類が、社會の集團と階級とを問はず一切が野獸の如うに嚙合ひ、戰爭に因つてお互ひに殺戮し合ふとか、或は產業上に於ても、亦爭鬪をことゝして參りました。此の過去十年は人類の腦裏に、大いなる暗影と、苦痛とを與えました。此の苦痛と、死に直面すると云ふ體驗とは、人類に何等かの暗示を與えることと信じます、即ちそれは次の二つであらうと考へられます。その一つは『世界はあらゆる階級、集團及び個人を通じて、反目爭鬪の現實である』と云ふことであります。他の一つは『かゝる悲慘なる爭鬪の危險を排して、永遠の平和幸福を將來せんとする、大願を建てること』であります。此の大願は即ち一燈園の如き、奉仕托鉢の生活に依らなければ解決せられないと云ふことが證明されて居ります。個人と個人、社會と社會、或は國家と國家との爭鬪は何等かの犧牲に依つて、避け得られるものであることを信じ、その犧牲の中から生れて來る可き永遠の平和、人類の幸福のために

地下水の如く默々として奉仕托鉢されるのが一燈園の生活だらうと思ひます。私は未だ、天香師とは戰爭に就て多く話合つては居りません、亦園の生活に關しても多くを知りません。然し皆樣の平常の信念を通して大體の推定は誤りのないことと思ひます、それは非戰論者であることを信ずるのでありります。國と國及階級と個人とを問はず、戰に接することは大なる冐瀆であると信ずるが故に、戰爭を否定し、之を避けて人類の平和、幸福のために、或る犠牲……それはたとひ大いなるものであつても……を堪え忍ぶと云ふことは、彼のクヱーカーやその他種々の宗教の立場から實行されたことが西洋にもあります。然しそれは實に消極的なものでありました。其處で私の極めて喜びとすることは一燈園の無所有の托鉢であります、それは一見實に消極的の樣でありますが、よく究めて見れば、それが非常に積極的であることであります。

皆さんは將來の平和の種を蒔く人々であります、その種の蒔かれるやよしそれが小さくとも將來何等かの實を結ばずには置かないと云ふことを固く信じるものであります。かくの如く私は皆樣の托鉢奉仕の生活に對して、深い憧憬をもちますことをお許し下さい。亦一方で皆さんが此の生活に對して、何等か疑問を抱く樣なことがないだらうかしらと懸念するものであります。それは今の社會は餘りに物質欲にのみ走つて居ります故に皆さんが『利用されて居るのぢやないかしら』と考へられる時に抱かるゝ疑問であります。かうしたことが案ぜられますので、私は皆さんと何か話して見度かつたのであります。然しそうした疑問の起りました時でも、勇敢に御進み下さる糧として、より高い人類的見地から考へまして、たとへ此の清淨な生活が貪欲飽くなき徒に如何に利用さるゝとも、根本的に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

深く廣く根強く、偉大なる事業であることを確信してお進み下さらんことを望みます。私は利用する者には默つて利用されて良いと思ひます。そこに私は深い信念の大きい力を感じます。皆さんを理解することの出來ない人々の前で、或は又理解なさらうともしない人々の爲に、默々として働き、托鉢されると云ふことは最も尊い仕事でなくて何でせう。譬へばそれは母親の子供に對する優しい自然の愛の樣なものであります。母の云ふことも聞かないで、轉寢をしてゐる子供に、そつと上から蒲團を着せてやる母親の愛にも似つかはしいものであると思ひます、惡ければ惡い程、みにくければみにくい程、限りなく愛する、其の切なるものは私に、大きな敎訓を與へるものであります。

しめやかなる曉の雨の音と共に、青葉若葉の香、訪づるゝ此の禪堂での語ひは、清淨なるこの生活と相待つて限りなき神韻をそゝります。お見受しまするに皆さんの多くは青年子女の方々でありますが、これ等の若い御方々は、或は一燈園の生活を、基督や又は佛敎の統一運動の樣に御考へになつて居らるゝかも知れません。然しながら、そうした運動にも增して、默々として托鉢なさることが至上の尊いものであり、ヨリ力强いものであると私は思ひます。歐米の政治家のある者は時に數萬の人々を前にして演說することもあります、又學者が萬卷の書を讀み且つその著書が幾萬人に讀まれもするでありませう。然しそれ等の演說の中に、或は書籍の中に話されて居ない、亦書かれて居ない、唯一つのものゝあることを、今私は知つて居ります。それは即ち托鉢の生活であります。

譬へばこゝに一人の眼の見えない子供が居ると致します、その子供さんに對する皆さんの托鉢の態度を考へて見たいと思ます。若しそれが西洋でありましたならば、彼等はその子供さんのために、直

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ちにお金を集めることでありませう、そして次ぎにその子供を病院へ送ることでありませう、そしてその眼が治るか何うかを診断して貰つて、若し治るものでしたらどこまでもそれを治療してやることでありませう、それが若し治らないと診斷された時には、今度はその子供さんの爲に盲人としての敎育を授けることでしやう。西洋人は之でその子供のために十分盡してやつたと思つて居ります。處がこの子供の爲めに、先づ直ちに必要である所の手を引いてやると云ふが如き卑近な細かいことは、爲さうとは致しません。彼等の爲すことは總て表面的であり、組織的なことばかりであります。かくの加く西洋では、一人の盲目の子供に對しても、直ぐに組織を考へます、そしてその組織化の爲には萬金をも費すことを惜みません。それは決して惡いことではありません、良いことであります、然し彼等はもつとヨリよきところの、下座と云ふことに對しては、全く注意も惹かなければ亦興味をも持つて居りません。バイブルの中にある言葉でありますが、基督がある處でお説敎をして居られました時に、一人の金満家が來て澤山のお金を投げて去つた、その後で亦一人の寡婦が參りまして極僅かの銅貨を置て去つた、その時に、一人のお弟子が基督に向つて問ふたのであります『主よ、先きに投げられた澤山のお金と、後の銅貨と、どちらが尊いものでしやうか』と、基督は之に對して、勿論後の銅貨が如何に尊い供養であるかをお說きになつたと書いてあります。此の尊い銅貨こそ一燈園の托鉢であることを信じます。

私は嘗て『貧者の一燈……』と云ふ東洋の格言を紹介したことがあります、そしてそれがこのバイブルの中のお話と、良く一致して居ることを見出して、一燈園と云ふ名は此の『貧者の一燈』と云ふ

格言と結び合はされて、私にとつては慕はしい名であつたのであります。前にも云ひました様に、西洋人は表面的な組織化に對しては飢える様な熱望を持つて居ります、然しその組織も始めは立派な、良い動機から計畫され、亦始められるかも知れないが、年と共にその良い精神が消え去つて、空虛な、形體ばかりがとり殘されると云ふことはよく知られて居る事實であります、何故かうした結果になるかと言へば、それは個人と個人の心の接觸が缺けて居るからであると思はれます。然しながら組織と云ふことは全體が惡いと云ふことではありません、よい意味での組織は一燈園に於ても有用に取り扱はれはせぬだらうかと考へられます。然し一燈園生活の最もよい哲學は組織ではなく、托鉢であり、個人と個人の心の接觸である。地下水の如く隱に德を積むと云ふ點にあるだらうと思ます。

尙私をして次の如く言ふことをお許し下さい。それは西洋の方法は近代語で言へば、民衆哲學とでも言ひませうか、單に組織を何うするか、或は科學を何うするか、と云ふことによつて、人生及び社會の問題を解決しやうとして居ます。かうした科學と組織のみに賴ることは一面非常に惡い結果を齎すこともありますが、亦之を善用すれば立派な效果も擧げることが出來るだらうと考へられます、故に一燈園の托鉢生活を徹底的に行ぜられると同時に、組織的、科學的な宣光社の事業をも大いに發展せしめらるゝことが肝要であると思ます。それは丁度車の兩輪であり、乳母が子供を育てるに優しい慈しみと共に强い嚴さを以て育てゝ行くと同樣なものであります。組織は能動的であり、托鉢は內面的である。子供には步むこと、なだめることを敎ふる樣に、一燈園と宣光社とは不可分のものであると思ひます。

皆さんの信念を通して人類に對する、大きな敎訓が生れつゝあることを私は信じます。私がそれを瞭かに知ることの出來ましたのは、東京の中桐確太郎氏から戴きました『光明祈願』(岩橋武夫氏英譯)に依つてゞあります、通讀して後に最も私の心を衝つたものは次の點であります。即ち全人類の罪惡苦患を一身に擔つて居ると言ふ點であります。私は嘗てより活社會の出來事は、その責任を各自に分擔しないでは、此の地上に天國を建設することは出來ないと信じて居た私の考へと、全く一致することを知りまして、實に譬え樣のない悦を感じた次第であります。園を通じて深く感謝致します。私及私の友人がたづさはつて居ります、ほんとうにお互が皆兄弟であり度いと云ふ、國際上の大きな人道主義の運動の上にも、皆樣の眞摯なる托鉢を模範として大いに學ぶ處がありましたことを重ねて感謝致します。

托鉢をすると云ふことは、小さいことであり亦つゝましいことであります。然し、それが私共に取つては威大な敎訓となることを思ひます、大きな例としては多くの國際問題に對する理想が、いろいろな人々に依つて、大きく論ぜられて居ります、併しそれには多く何等の實行が伴つて居ないことを見るのであります。之に反して一燈園の生活は不言にして實行である、深く根強く地下水の如く、あらゆるものを浸潤して止まない。それは彼のエスペラントの運動が形は小さい運動ではありますが、それが便利であり簡單でありますが故に、世界に徹してゐる樣に力强いものであることを信じます、エスペラントの人々は、氣永に根強く主義の爲に平和の戰をつゞけて居る。皆樣は亦敬虔なる態度で下座と奉仕に餘念がない。幾度も繰り返して言ふことではありますが、この小さい、つゝまし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

い、その中に大きい、強い力が隱されて居ることを深く味ふことが出來ます。

私が日本に於ける短い生活を通して、かうした方面へ生活を向け得たことは非常に有意義であり且つ悦びとする處であります。私は世界の平和、人類の幸福、と云ふことに就て考へ且つ、そのことに關して働いて居るものでありますが、ともすると一種の脅威を感じ、常に生存をおびやかされてゐる不安があります、それは不純な動機から始められたものである爲か、或は自分と云ふものを捨て得ない爲であるらしく思はれます、即ち今茲においでになる皆さんの様な體驗を持つて居ない爲であるらしく思はれます。

斯うした下座、托鉢の生活は單に國際間の平和の爲ばかりでなく、爭闘、掠奪をこととして居る産業界に於ても亦必要なものであると考へられます。私は今思ひ起します、一燈園の生活は、嘗て書物で見ました『地下水の如き』と云ふ比喩が一番ふさはしい様に思ます。地下水が、絶え間なく流動して、ある處では地上に麗しい花を咲かしめ、またある處では若々しい新芽を萠ざさす様に、慈愛に滿ちた母親が、小夜更けて安らかに眠る我が子の爲に、そつと上衣を懸けてやる様な優しい、つゝましやかな生活であると思ます。かゝる母と子との關係は亦一般の社會にも必要なことと思ます、人間は母が子供を愛する氣持にたち歸つた時、總ての事件は軟かく、心良く解決することが出來るものだらうと思ひます。

タゴールは彼の天を母に譬えて居ります。その母の愛によつて信ぜさせて戴くと云ふことから彼の一切の思想が生れ、そして育(はぐ)くまれて居る様に思はれます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

結論に入るに先きだちまして、西洋の思想と一燈園の托鉢との關係に就て、今一度繰り返えすことを御許し下さい。

それは西洋で一番著しく發達して居る物質文明を決して侮蔑のみしてはならないと云ふことでありますタゴールが『最も發達したる組織的科學文明をとうしての文化』と言つて之を認めて居ります樣に、一燈園の皆樣に於ても之を認めることが出來ることと思ます。然しながら西洋の科學文化ばかりでは勿論駄目であります、その中に缺けて居るものは天の心であります、即ち恵まれたるものに對する感謝が缺けて居ると思ふのであります。精華を極めた科學文明の精神に、最も立體的な、此の感謝の眞髓を入れたなら世界の建設は錦上更に花を添える事であらうと確信する次第であります。かゝる意味に於ても一燈園の托鉢生活が有意義なものであることを信じます。今日まで宗敎的に偉大な豫言は皆亞細亞から起つて居ります、それは亞細亞人にとつては意味深いことであらうと思ます。

尙こゝで二つばかりの暗示を與えることを御許し下さるならば幸福に存じます。

基督敎から私共が學んだ一番良い點は『安息日』を守ると云ふことであります、これはユダヤに於て起つたことでありますが、一日の内一時間でも、一週に一日でもよい、生活から赦されて、靜かに考え、その祈禱を深めることが出來ますならば、更に有意義であらうと考へます。故に一燈園でも……そうした設けがあるかも知れないが……此の安息日を守ることによつてまた新らしい方面が拓けて行くであらうかと考へられます。

今一つは皆さんが他人、即ち隣人や友人、亦は目上の人々に對しても、一切が端的で率直であつて

欲しいと思ます。何等の隔てをもたぬが良い、即ち秘しだてをせぬことであります。クエーカーはそれが亦極端な程であります。初期頃の彼等の應答はYesかNoの二つの中いづれかに限られて居ります、亦商人でもクエーカーは、その商品にギリ〳〵の値段を付けて置て、それでお氣に召さなかつたら買つて戴かなくてもよいとして居ります。だから一見非常に粗暴に見えますがそれでよいと思ひます。新らしき世界は簡單を必要とする世界であります、表面の虛飾で、その考へを被ひ隱すことは、よくないことであります。お互に缺點は戒しめ合ひ、或は語り合ひ、成さんとする事柄は協力して何處までも遂行されんことを希望致します。

かく申上げますことも、私の端的な、率直な、精神からでありますから、何うか惡からず赦して戴きたいと思ひます。

皆さんから見れば人種の異つた、眼の色、髮の色も異つては居りますが、要するに地の東西を論ぜず等しく天の下僕として端的に働いてゐるが故に、姿は異るとも心は同じ心が觸れ合ふのでありま す。西洋人として皆さんの中から學ぶこと多く、皆樣も亦西洋の人々からお學び下さることがあらうと思ひます、斯う言ふ風に人種と人種、國と國が同化の線上に立つことが出來ると確信致します。

殊に皆さんの生活は單に一國の國民としてのみでなく、世界の國と國、人種と人種との間の眞の平和と幸福を持ち來たさん爲の願ひからであることを思ひ、厚き尊敬を通じて深く感銘する次第であります。

最後に御多忙の處を未明から長い時間をとりましたことを御詫び申上ます、私の話はこれで終りと致します。

（一四、五、三）

社會淨化としての懺悔の生活

住田蓮車

少しく打開いた心を以て見る人には、此の現代の社會は、凡ゆる部面に亘つて、恐るべき行き詰りを示して居ることが看取されるではありませう。ブルヂォアとプロレタリアの爭ひ、親の時代と子の時代の爭ひがある一方には、婦人問題として、女と男との爭ひも旣に開始されて居ります。また一方には長い間虐げられ辱められて、人間でありながら人間としての待遇を殆んど受け得ずして、暗い心で幾世紀の間を通つて來た少數同胞の自覺は水平運動として叫びの聲を放たれ、所謂普通民に向つて彈丸は投げられて居ります。また獨立國としての權威と自存力とを亡つた朝鮮の兄弟達の間からは、或は獨立を要求し、或は日本人としての平等的待遇を要求しての運動も次第に熾烈に、言論よりは實際になりつゝある趨勢です。

そして國內的には、此のやうに兄弟墻に鬩ぎ、血で血を洗ふやうな爭をしてゐる日本人は、對外的に見れば亞米利加からは、露骨極る侮辱と虐遇とを受け、歐米の某々國等からは、陰險な手段で世界を狹められやうとしてゐる有樣です。

此のやうに見て行くと、此の世界は凡ゆる物が無限に分裂し、さうして無限に對立して地獄相、修

羅相を現じてゐるやうに思はれます。

對立して爭へる二に對して、此處まで押詰つて來てゐる現狀に於ては、何れを善し、何れを惡しと審くことは、誰人にも出來得ぬことであらうと思ひます。若し、何れか一方に對して『お前が惡い』といへば、言はれたその人は、『何故俺が惡い？』とかゝつて來ます。さうして二人の渦は三人に擴大します。

『物平ならざれば鳴る』と古人は言つてゐます。爭ひには何處かに間違ひがあるからです。

慾望の滿足を求め、自我の主張によつて立つてゐるのが世間の生活のやうです。或人は自由を主張する。けれども、若し自由も俺の自由と言つて主張すれば、必らず誰かの自由と衝突します。何處かゞ倒し、倒されることになるのです。假令、その時は勝つても、怨みの種子は殘される。さうして、それは他日何等かの形で返つて來ることになります。

愛といふことも此頃はよく說かれる。それも、若し、それが煩惱による愛、執着の元となる愛であつたならば、その愛は自分にも他にも、救ひではなくして滅びでありませう。まことの愛、慈悲とは道の悅びであり、共に救はれる道を發覺した感謝と拜み合ひでなくてはならぬと思ひます。私達は愛の名を借りて、事實は愛慾を增長されてゐるのではなからうか。

此のやうに一々の問題を見て行くと、長くなりますから今は擱きますが、要するにそれ等は、何時の世にか薰習した處の私達の無明による我見我執我慾から起り來るものとより外思はれません。

一燈園生活は他に對して、罪を責め、斯くせよと要求し、命令する生活ではない。どんな小さいこ

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

とでもよろしい、先づそこに自覺した者ならば、他に求め、命令する前に、先づ行じ、先づ懺悔する生活であります。

法然上人は『一切衆生の不信心は自分一人の足りぬ故だ』と嘆かれました。クリストは此の心持を別の表現で、『千匹の羊の内、若し一匹が迷ふならば、良き牧羊者は、その只一匹のために嶮岨を越えても探しに行かねばならぬ』と言ふてゐます。

此の心持こそ、まことに私達光に發願して此の生活に入れて頂いた者の等しく持たねばならぬ處だと思ひます。

私達自身が氣付かずして、不用意にやつてゐることが、光の眼から見たら、どんなに大きな障りとなり、救はるべき一切衆生を躓かせて居るかも知れません。

此の世の爭ひ、鬪ひが大きければ大きいほど、私達一燈園生活者としては、その元なる罪を他に嫁さず、己れに歸し、決して何れの側に對しても反抗しないで、深く祈り、懺悔にも懺悔せねばならぬことゝ思ひます。さまざまに社會の問題を思ふと、『悔改めよ、天國は近けり』と叫んだクリストの聲が現に響いて來るやうな氣がします。

懺悔は產みの苦です。懺悔の十字架を通してのみ救ひの悅びは輝く。

今は世界中の人全體が、皆悉く懺悔して、此世を正しく建直さねば危い時だと思ひます。世界の歷史を通觀すると、何れの國でも、有史以來、幾十度か總懺悔をせねばならぬ時代があつた。所謂大變革の時期です。まことに人類を愛し、此の世界を愛した、まことの革命家達は、初めは他に向つて警

告し、聲を上げて絶叫する。併し、人は耳傾けやうとせぬ。彼は遂におちつとしてゐることが出來なくなつて、自らを十字架に釘し、或は凡ゆる窘逐迫害の矢彈丸の前に毅然として立つて一切の罪を一人に受けて贖はんとし、また或者は、隱れ、身を退いて、默して深く祈つたものである。何れの途を選ぶかは、その人々の性格によることで、何れを是とも非とも決して定むべきものではない。要は只祈りのなかに深く徹し、且つその人自身の全生活となつて祈られて居るかといふにあることです。

私達は一度はつきりと『カイゼルの者はカイゼルに還し、神の物は神に還した處から』發足せねば駄目だと思ひます。一燈園生活こそ將にその使命を帶びて現れ來つた生活だと思ひます。此の生活に入るまでこそ、他を批判し、己れの利慾の主張もあつたのであらうが、道に發願し、此の生活に入らうと覺悟した時、私達はそれらの批判、主張を擲つて、光に歸さねばならぬ。

數年前の歐洲戰爭は、その結果歐洲文化の缺陷を暴露し、彌縫することさへ困難の狀態を持ち來した。彼等の中にも既に眼覺め、生活の救ひを翹望せる人には、曾ては消極的なりとして、無視し、輕蔑しやうとしてゐた東洋文化の中に、その光の藏されてあることに氣付かされ、熱心に探求し、仰望しつゝあるといふことです。思想的には佛敎、孔子、老子、日本の古神道の研究さへ行はれて居り、實際的には、印度のガンヂーの運動などが、注意されてゐるとの事です。

けれども、それが研究や注意だけでは何にならう。それは知つた、見たといふだけではないでせうか。獨り歐米人のみならず、今は最早全世界のあらゆる國民達が、我執我見我慾による生活、自分のみを偉くし、生かし、立てやうとする生活を捨てゝ、光の前に懺悔し光より許されて活きる一燈園生活に來らねば駄目な處まで、既に來て了つたやうに感ぜられます。全世界中の人が皆懺悔して、先づ自分の生活の革命から出發せねば駄目です。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

共產主義も結構のやうに思ひます。けれども、若し、みんなが、そこに於ても猶且つ、自分のものとしての分け前を要求し、主張する社會ならば、よしそれが平等的であるにもせよ、その所有慾、我慾は再び頭を擡げ出し、增長して、如何によき社會組織、制度なりとも、再び破壞し、再び血を流し合ふ革命を見ねばならぬでありませう。

『光は東方より』の叫びは既に久しく、そうして次第に強く大きくなつてゐるやうである。併し人々は未だ光を知らぬ。一燈園生活が全世界に認められた時、その時こそ、この『東方の光り』が生命の原となつて地を輝かす時であらねばなりませぬ。

如何によき結果の爲であらうとも爭はないことを祈ります。私は現代流行の階級鬪爭などいふ言葉は聞くだけでも不快です。そのやうにして成就される革命を、光は決して悅ばぬであらう。我執の生活を去つて下さい。共に生き、共に喜び、共に救はれる生活まで來ねば、社會の問題は解決されぬでありませう。

懺悔のみが此の生活に入るの門ではない。けれども此門を通らずしては、まことの此の生活に入ることは不可能である。

時代は惱み、世界は苦しんでゐる。誰に求め、彼に賴むべき時ではない。まことに氣付いた人、自覺した人、理想を持ち願を發せる人は、先づその人自身より懺悔し、光に許され、淨められた身となつて、先づ自己の生活の革命を成就せねばなりませぬ。

托鉢三昧となり、生活ぐるみの懺悔となつて、光は輝やく。行者自身は、その祈りの德を知らずとも、光はそれをよく知り、小さいものは小さいなりに、世と人の生活の淨化の源動力となつて、一切衆生の上に廻向したまふでありませう。

（大正十二、十二、二十七日）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

みみずの家

石川三十雄

『而白い電話すでぜ』

さう言ひながら木魚さんは部屋に入られる。私は話しに乘つて直ぐ言葉を接いだ。

『何ですか、聞かせて下さい』

『まあさう急き立てないで……一燈園は急かんでなあ』

笑ひを浮べ、一寸甘へる者をたしなめる口吻は例の調子である。

『ではこれをお敷きになつてから』

差し出すともなく、そこに展べてある坐布團に手を觸れて、たしなめられた御禮をする。

木魚さんは腰を下し膝頭を角火鉢の根に當て、拳に握つた双方の掌を解いて火に出し、

『布團を敷かせて貰うも托鉢、火に當らせらるゝも托鉢、ありがたい』

口につぶやき掌を揉み合せる。

『どこからですか、電話は』

私は早く聞かせて貰ひ度くてならない。

『鹿沼の長谷川さんから……思ひがけなく宇都宮の御縁先きからの好意で、この旅館を用意されて何ともありがたいと言うてきました。長谷川さんの方でも御禮申して下さつたそうです』

『御供養で日光見物さして戴き、その上一夜の露を凌ぐに二つの旅館を惠まれるなど不思議ですね。あゝ父の家には住居多し！』

　この夜私達は二つの館から呼ばれて、止むなく他をお斷りせねばならなかつた。

『それから』

と木魚さんの話しが強く出る。

『面白い話し！　長谷川さんのみゝずの家がす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

つかり建つたさうです』

『え、嘘でせう。これは失禮、あの人が冗談をいふ筈はなし……』

『電話だから姿は見えないが、大層うれしさうでしたよ』

『さうでせうよ。默念さんが默念と笑つて』

『全く私も餘り早く出來たので、をかしく思つたから念を押しましたら、――ほんとうですよ御覽ならなくちや解りません――と後は笑つてました』

『私達が出るときは未だ場所も決つてゐなかつたのでせう。何時出來たんでせうか』

語る人は電話ではあるが、兎に角直接に家を造つた本人から聞いて、解らぬながらも信じては居るが、問ふ者には夢の如くである。最底下座への念願から禱立された一棟の家。とは謂へ人の住むために建てられた家ではある。疑ひ？は好奇を生み、まだ見ぬ家への憧れは私の魂を誘ふに充分である。

『今日半日で地ならしから上棟式までやつたさうです。お店の人四五人の手を借りて』

と木魚さんは語を結ばれる。

□

翌日の夕暮に私達は鹿沼へ戻る。

『お目出度うございます。みゝずの家が美事に出來上つたそうで』

私達の口からは先づかうした挨拶の言葉が洩れる。

『ありがたう御座います』

長谷川さんの顔は、ほんとうに嬉しさうにほころびる。

『早速御案内しませう。仲々立派になりましたよ、驚かないようにして下さい』

と笑顔が一層くづれる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

提灯を下げ先に立つて行く人は長谷川さん、ぞろぞろ後に從ふ人達の仲にはお母さんも交つて居られる。お店から數町離れた所にお家の花園があり、その庭隅の木立の中にさゝやかな家を見出す。

先づお母さんがいぶかしがつて、

『まあこんな掘立小屋みたいなものを……』

その少しく頓狂な聲に皆が同感だといふやうに笑ひ出す。それに違ひない。間口一間、奥行は五尺もあらうか。

『やあ、ハイカラな文化住宅！』

誰やら批評までハイカラに飛ばす。

『温室と謂つた感じもしますね』

奇評も出る。正面から見た所は確かに文化住宅の模型のやう。或は温室とも見られやう。がそれはあまりに皮肉である。洋館の扉が二枚釘付けにしてある。埃の積んだ硝子が二三ヶ所あるだけで、木地のダークブリウの色合が不調和に洒落れてゐる。軒には半圓型の硝子の入つた扁が垂れてゐる。温室の感じはこれから出たらしい。これらの材料は某病院の廢物であるさうな。

『入口はこちらです、さあどうぞ』

長谷川さんが北側に廻つて戸を開かれる。この扉もどうやら前のと仲間らしい。更に一枚この仲間が南側に使つてある。採光を考へ光明第一を主眼にされたことが想像される。

家の中に入る。

『お氣をつけ下さい、頭が天井にあたりますから……少し天井が底過ぎましてね』

この家の主人公たるべき人が説明やら詫びやら。

『頭を底うせねば入れない。面白い偶意ですよ、頭高き者よこの家を訪うて禮を習ふ可しですか』

とは木魚さんらしい聲。

家の中は一疊半もあらうか。但し古い疊床を使つてその上に茣座が敷いてあるだけ。三人許りにじり込む。入口は少し狹いけれども、坐つたら四人程の人數は容易く入れる。

『正に膝を交へて語るべし』

文字通り膝と膝を突き合せて皆が笑ひ崩れる。

私の坐つた後は羽板目になつてゐて、何やら雨ざらしになつた古板らしく、手を觸れてみるとざらざらと肌觸りが惡い。四邊ことごとく隙間だらけ、風通しも大分よろしいやうだ。

『こんな所に夜分休んで、風邪でも引いては』お母さんの口からは慈悲に充ちた親らしい心配の言葉が洩れる。

『いや、このまゝではありません。室中紙を貼つて綺麗にしますから……小さい家は存外暖いものですよ』

『强い風が吹いたら、何處かへ飛んでゆきさうですね』

『その時は家と共に飛ばされます、でもこの通り丈夫ですよ』

言ひ乍ら隅の柱を揺られる。家全体が怪しくゆれるがしつかりしてゐるらしい。

□

ある日の午後、みゝずの家での對話。

『みゝずの家！　聞くだけでもゆかしい名ですね。命名の由來をお話し下さい』

『それは——六祖大師が龍を喝して蜒蚓に變じさせたといふ故事がありまして、それから貰ひました。』

『何だか聞いたことがある樣ですが、記憶がはつきりしません』

『托鉢行願の中にありましたらう』

『あゝさうでしたか』

『あの本の照顧脚下の中に——大師が龍に向つて『汝大身に現ずる事を知りて、何ぞ小身に現ずる事を知らずや』と喝したその現小身の心持を頂いて名にしました。そして實はその御撰名は木魚さんの御好意に依るんです』

『六祖についてはこの間面白いことを讀まして貰ひました。五祖弘忍禪師が衣鉢を傳へるとき盧行者は佛法を會せず唯道を會す依つて之に衣鉢を傳ふと謂はれたそうです、盧行者即ち六祖はたゞ道のみを歩んだその人の故事をとつて、ひたすらに道を行じられるあなたの心を有りがたく思ひます』

『まあ私の一つの念願が許された譯で、産みの喜びといつた樣なものを感じます。長い間考へてゐたとは謂へ、突然に場所が見付かり忽ちに出來上つたのは全く光の力だと稱へたくなります』

『事の成るや成るの日になるに非ず必ず由つて來る所ありとか申します。長い間の精進が凝つて光に通じたのでせう。あなたの身、心、くらしと、すつかり調子が整うた譯で結構なことです』

『ありがたう。これでどうやら私も落付けさうです』

『維摩の方丈が聯想されますね』

『否それ程の法力はこの廊室からは生れそうにもありません。たゞ私の生活が最底の下座に深められゝばとそれだけです』

『世の中の人の生活欲は詮ずるところ大身に現じようとするだけです。大身に現ずることは自己擴張です。そこに爭ひの種子は蒔かれて人と人國と、國と血で血を洗ふやうな鬪爭と紛糾の花が咲くんです。これを逆に行つて平和の土臺石となつて埋れるわけですね』

『結果はさうもいへませうが、見る眼を持つ人が見られたら何と見られても有りがたいことです』

『それに近代的文化といふ匂ひを脱して何處かに原始生活の味はひの漂つてゐることも興味深く感じられます。自然に還れといふ叫びは華やかな物質文明の進むと共にその聲が深刻になつて來るやうではありませんか。端的に文化を呪ひ否定することは愼まねばなりませんが、人々の讃美する現時の生活様式——社會相の一面には不安な陰影が認められる許りか、その影の領域は擴がり、その濃度が強くなつて行くやうにも見られます。人間はこんな風に生き方をしてもよいのか。人間本來の姿は物質の中へ溺れてあまりに蹂躙され過ぎはしまいか、何だか智慧を弄んで危ない樣でもあるが。これが神の聖約であらうか。などゝ次々に疑が湧いて參ります。

都會生活者が半日の郊外清遊に土の匂に親むことを如何に憧れるかを御覽下さい。又アメリカなどの所謂バンガロウ式建築は生活の中へより多くの野趣を採らうとする人間の絶ち得ない欲求の動きの表はれではありませんか。たとへ原始生活、自然に還れなくとも、その心を以つて赤裸々の大地に歩を運んで神の聲を待ち度いと考へられますね』

『——願くは汝の目を夜晝此家の上に開きたまへ、しもべがこの處にて祈らん祈禱を聞召し給へ——ですか』

本號表紙題字
奈良藥師寺慈恩大師像贊
小野道風書と傳ふる
ものより頂きました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

闇より出でて

野田清一

色々苦しんだのが基になつて、かなりひどい腦神經衰弱にかゝつて床につき三ヶ月もお醫者の御厄介になつて居りましたがはかばかしく行かないばかりか、腦病は益々深く、自分と云ふものを考へる時、もうだめだと思つて悲觀のどん底に落ちてしまひました。次第に弱つて行く體と親兄弟に一方ならぬ御心配をかけますので暗い日が續きます、何うかしなければならない氣持は遂に一燈園へと變りました。

まだ御目にかゝつた事はありませんでしたけれども天香さんへ手紙でおたづねしたら、健康は、と云ふて下さつた時に此の病體にてはとても許されないのかと案じて居りました、無理に二度目にお願しました時、弱身であつたら暖かくなつてからの方がよいでせうと、おたよりを頂きました。私はほつと致しました。

暖かくなるのを數日待ちましたけれども遂に待きれなくなつて、當分服藥しなければとて、外出などはもつての外だと云ふ、お醫者さんの言葉にそむいて、腦病をそのまゝに衣の棚の天香さんの托鉢先へよせて頂いたのは、まだ寒い二月でした。私の體を知つて下さる方は皆無理だと心配して下さる程私は弱つて居りました、なにしろ三ヶ月も床に就いたまゝでしたから皆樣の心配して下さるのは當然過ぎる譯なのです。其の日天香さんは御不在でお逢することが出來ませんでしたのでその足で鹿ヶ谷の方へよせて頂きました。

園へついた頃は、長い汽車の疲れが共に出て座つて居られない程でしたから休ませて頂きましたけれども眠れず、苦しい思をして其の夜を送りました、それでも翌日から皆樣と共に托鉢に出して頂き勿論藥も止てしまひました、が病體の割合には輕く働く事が出來、其の夜は久し

ぶりで夢もみず安らかに眠れました、連日耐られない程痛んだ頭も忘れ、數日後には一貫匁近くも體量がふえました、半ケ月としたらすつかり病氣が直つて居りました。

此の時は眞に無上の喜悅を感じました。實は家を出ます時三ケ月もしたら歸る心算でしたがこの悅をこのまゝ延したらとさへ思ふ樣になり、生涯此の道を歩まして頂かうと決心したのも此の時でした。

病を直さなければならないと豫定して居ない私は托鉢で病氣が直つたとは思ひません病氣だと寸刻も離れなかつた心が托鉢によつてポツと奪はれた時病氣も直つて居つたのです、理論では分りません、けれども不思議ではないと存じます。

私は何時も此氣分を中心として居ります、私は存じませんけれど傳燈錄とかにあるそうです

一切業障海　皆從妄想生
若欲懺悔者　端坐思實相
衆罪如霜露　慧日能消除

端坐して實相を念ずる、即ち托鉢に專心になつた時一切の妄想は奪はれ諸の苦惱は消滅すると信じます。どんな問題でもこゝまで持つて來ればと思ふ樣になりそれからは敎を乞ふた時無學な私に無理だと思へる樣なむづかしい樣なことでも案外易く飮込める樣になりました。

暗い、あてもなくもがいた中から少しでも廣くて明い世界を見させて頂くことが出來る樣になつたのは天香さん初め先を歩んで下さつた、諸兄姉の御導きによるが故に感謝しても感謝しても感謝しきれないこの悅を、描くて其の萬分一も書き表せないけれども皆樣におわかちして共に光をたゝへさして頂き度う存じます。合掌

—長野縣西筑摩郡大桑村野尻にて—

香園寺便り

まさる

四國の地を踏んで先づ弘法大師の福田の大きさにおどろく。何はさて四月十二、十三日は、その御命日とて御參詣人の夥だしいこと、全國に十萬の講員を有するといふ子安講の方々は勿論、春光を浴びて輪の音も長閑に、御遍路樣達が陸續と押し寄せて來て、境内は身動きもならない程の人の山！　こゝはこれ伊豫小松第六十一番の札所として有名な香園寺、行屆いた御接待振りに御遍路樣を剝ぐと噂せられて、御同國なさる方にはきつと御通夜なさる御寺だそうだ。

　當日は千人の御通夜なさる方があるそうで、典座寮の忙がしいこと。二斗たけるお釜二つで打つ通しに御飯をたいて居ても未だ間に合はない有樣。立山さんと私とは重に御椀や小皿を拭いて居たが、ふきんをしぼるためにまめの出來たのは此度が始めてだつた。南禪寺の辨天講も相當忙がしいが、まだ御膳部の下つて來るのを手をあけて待つてゐる暇が出來るが、香園寺では息をつく時がなかつた。五郎さんの詩ぢやないが、忙がしさは否應なしに三昧に入らせてくれる。

　昨年十二月より約一ケ月在園なすつた當寺修道園の園生Ｈ樣の歸山后の生活の變化は、院家樣に一燈園の裡にひそむ力を肯定させ『懺悔の生活』の精讀は密敎と符合することを知らしめた。十數年前北條の長福寺と小松の長者からは手厚い待遇を受けてゐるに拘らず、一方尾行つきの御遍路樣として、名前だけは記憶に殘つてゐる過去の插話も、新らしく腦裏に蘇つて來て、天香樣へ講演依賴の交渉が始まり、四月十八日から三日間寄せて貰ふやうになつたのである。其外三四の方が鹿ケ谷へ御訪ね下さつたことも緣の糸にはなつてゐるのだが……

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

當日十八日には旅としては比較的多くの同人が集つた。昨冬來悠々と巡禮なすつてゐる草場樣夫婦。六十一番から八十八番までを四日間でうつて、高松から引返して下さつた伊藤正則樣。三月初旬京都をたつて來られた田原樣の四人は御遍路組。下駄直しやさんを臨時休業でいらつした立山さん。九州へ私の代りに行つて下さる途中の谷野樣。海一つ渡つて廣島から來て下さつた渡邊輝一樣。西條が故鄕の木村樣。天香樣には保太郎樣が隨行されて高松から西條徑由で來杖され、私は九州からの歸途寄せて貰つた。合計十一人である。その外藤解樣が時々打合せのために尾之道から見えた。大島ひろし、中村靜江の兩姉は、到頭宇和島西弘寺までしか御越しになれなかつたらしい。京都を離れて同人にお目にかゝれるのはなつかしい。此度などはこんなに多勢の方々にお遇ひ出來るとは夢にも思つてゐなかつたから尙更そう思へた。

一、一燈園生活　四月十八日
一、一燈園と宗教との關係　同　日
一、一燈園と社會生活との關係　四月十九日
一、宣光社に就て　四月二十日
一、時間問題と一燈園　同　日

當寺修道園の園生を中心に、前記のやうな題で、毎回二時間餘りに亘つての講演があつた。何時も百名内外で、聽集と纏つてゐたから、天香樣もお話がしよいやうであつた。講演といへば、入口の整理で手のあかない私も、此度は悠々聞かせて頂いた。

『天香樣の御話は筆記出來ないで困つて了ふ。始め暫らくは、書取る意りで一生懸命に筆記してゐる内に、つい話が面白くなると、つりこまれて手を休めて了ひ肝要の所を書き落して了ふ。』

誰かが斯んなことを云つてられたが、實際私達のやうに幾度も伺つてゐるものにも、その時々の新らしい興味を持つて聞かせて頂けるのは、總てが實生活に即した話だからだらうか？

廿一日朝、伊藤、木村樣の御二人に後を御願ひして、皆樣は無量寺へ、草場夫婦、田原樣は御遍路を續けられるので驛で御別れした。

（十四、四、二三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

クリスト教社會主義史（五）

松下吉衞

吾等は今や協同組合の統合運動、生産組合と消費組合とを結合して社會の全産業組織を改革せんとする企圖に於いて、クリスト教社會主義者が如何なる役割を務め如何に努力を拂つたかについて考察する時機に達したと思ふ。

協同組合統合運動

クーパーとロイド・ヂョージとの傳道事業が、地方の協同組合間の了解を助成し、相互に經驗と製品とを交換し合ふ道を開き、統合についての協議會の準備として、大いに役立つたことは言ふまでもなく、又、『クリスチアン・ソーシアリスト』と『ヂアーナル・オヴ・アツソシエーション』との兩誌が、この運動につき、更に大なる影響を及ぼしてゐたことも事實にちがいないが、決定的にはたらいたものはニールその人の努力と統帥とであつた。

ニールは、同志達の關與してをる協同組合事業の消費的方面を進展せしめる一手段として、サルフオードで實地の經驗を積んでゐたロイド・ヂョージの助力を得て、ロンドンに協同販賣店を開く計畫を立てた。從來、消費組合の運動は、その發祥地たるロチデールを中心として北部諸州に普ねく擴つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

て行つたのであるが、どういふものか南部地方での試みは創業間もなく失敗に歸するのを常とした。ニールは、計畫萬端に細心の注意を拂ひつゝ、チアーロット街七十六番地に廣大な場所を購ひ、企業資金を前貸して、十月二十四日（一八五〇年）ロンドン協同販賣店を創設した。ロイド・ヂョージが支配人に選ばれた。趣意書には下のやうな記述があつた、『協同販賣店の目的は、協同組合員に——希望なら他の人々にでも——僞造等の恐れなき最良質の日用品を最低の代價で手に入れることを可能ならしめんとするにある。經營、配達の雜費及び一定の積立金を控除して後、五シルリングより少額でない資金醵出者には購買額に應じて利益の拂戻しがある。又、資金醵出者でなくとも、協同組合員なら、取引上特別の條件が許される。……』尙ニールによつて書かれた『富裕階級へ』の申出での中には、協同販賣店の目的として、（一）賣人買人の利害の衝突を除去すること、（二）詐欺的制度を打破すること、（三）分配の勞力と時間を省くこと、（四）協同組合の成立を助けることが列擧されてあつた。

モウリスは、この運動の本質を充分に了解してをらなかつたらしく、之れを以て、單なる商業的事務にして適當には設立者協會事業の範圍內に屬しないものとなつてゐた。かうして、前記の申出でも公表されないでしまつたけれど、同年秋季一ぱい、ロンドン市內各所に講演會は屢々催され、協同販賣店の趣意は可なりに普及された。

ニールが、協同販賣店を含めて一切の協同組合を單一團體に統合せんとする申出を初めて公表したのは、ロンドン協同販賣店の設立後であつた。彼が、かうした申出を敢てするやうになつたのは、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

根據のないことではなかつた。設立者協會の要求によつて、九月（一八五〇年）、パリへ視察に出掛けた彼は、小組合の分立に惱まされてゐる彼の地の實狀に大いに感ずる所あり、歸來、直ちに報告書並に重要なる長篇の記錄を設立者達に提出して、組合の增加と共にその管理に困難を生じ、組合員の脫退、組合間の不和等も從つて起り易いから、統制機關を設置して之れに充分な支配力を與へ、利益の受拂ひ、勞働の交換を司らしめんことを主張した。尙、彼は、當時の法律が二十五人以上の組合を認めず、從つてその資金の使ひ込みや關係者の詐欺的行爲に對する法律上の保護のないことを指摘して痛論した。

一八五一年三月、この記錄の要點を、ニールは『協同組合總同盟組織策』として印刷に附し、廣く各組合に配布した。これに對する組合員、設立者の討議が四月二十三日に行はれた。ニールは、この討議會に更に具體的提案をなしてゐるが、これは、協同組合の根本組織に直接の影響を及ぼしたものであつて、左の二要點から成つてゐた。

その一　加盟組合の收益はすべて共同資金に編入さるべきこと、而して、その一部は、組合共同の福利增進の爲めに用ゐ。又一部は、設立者協會の責任を果たし進んではその事業を擴張する保證として準備金に充て、更にその殘部は、組合員に各その提供した勞働の分量に從つて同一率をもつて分配すること。

その二　同一職業に從事しつゝある組合員はすべて、共同管理の下にある單一の組合に所屬し、必要に應じて支部を作るべきこと、かうすれば、組合員は相互に競爭することなしに仕事を均分するこ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

とが出來る。

一般組合員の間にも、かうした要求は、痛切に感ぜられながら、組合によつて收益に著しい差等があり、又法律上の庇護のないことなども禍して、ニールの提案が直ちに具體化される運びにはいたらなかつた。しかし熱心な彼は、之れがために毫も初志を飜さず、協同販賣店の卸賣部を發展させやうとして、新たに九千ポンドの資本を投じ、中央協同販賣代理店創設に着手した。五月三十日、ロンドン協同販賣店の維持員會が開かれ、ニールの新規案を附議したが、小賣業は廢止して新たに卸賣を始め、各地の支店並に普通小賣店とも廣く取引關係を結び、進んでは、銀行、相互保險の事業までも、代理店を通じて經營しようといふことが決定された。此度は、ニールとヒユーズとが管理者であり、ル●シエヴアリエル、ヂヨセフ●ウツデイン、ロイド●ヂヨーンズの三人が理事に選任され、商號は、ウツデイン、ヂヨーンズ會社と呼ぶことにした。又、會計は半年毎に檢査され、純益の四分の一は積立金とし、更に四分の一は雇人へのボーナスとし、その殘餘は協同組合促進の運動費に充てられる規定であつた。

この協同代理店の設立によつて、ニールは、クリスト敎社會主義者の事業を消費及分配の方面にまで擴大したのである。彼はこれについては、主として彼自身の責任で行動をとつた。彼の提案につき、設立者協會は、幾度か、討議したことはあつたが、彼の方策の上に眞の支配力を揮つたことはなかつた。爲めに、代理店の事業に對し、設立者協會は何程の責任を負ふべきかの問題を生じ、遂に、ニールとラツトロウとの間に論爭が行はれるにいたつた。その結果、兩者で關係は決裂を見んとす

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

るまでの急迫した狀態になつたのであるが、モウリスの調停その宜しきを得て、設立者協會と中央協同代理店との差別が公に發表されたに止まつて、ニール、ヒユーズもそのまゝ協會に居殘り、ラッドロウ亦過言に對する責を惡びれず忍受して、事は圓滑に解決した。モーリスは當時の『クリスチアン●ソシアリスト』誌でこの問題を論評したが、その一節に『設立者協會は明確にクリスト敎の商工業に對する適用に係はつてゐるものであり、代理店は之れを實際的方法に於いて行ひつゝあるものに外ならない……』と述べてゐる。

かゝる間にも、中央協同代理店は、事業を擴張して、協同組合の製品の販賣を開始し、非常な成績を擧げつゝあつた。マンチエスターの支店も、支配人にその人を得て、大いに繁昌した。『チアーナル●オヴ●アッソシエーション』に掲載された報告によれば、一八五二年の春には一週平均十五軒の店から中央協同代理店に注文があつたと。從來、主としてマンチエスター支店を中心に活躍してゐたロイド●チヨージが、ロンドン本店の販賣部を擔任するやうになつてから、營業の發展、驚くべきものがあり、チアーロット街の店では大いに手狹を感じたので、一八五三年の春、遂にオックスフオード街に可なりな建物を求めて移轉した。

この中央協同代理店が、協同組合運動の歷史に及ぼした影響は、計るべからざるものがあつた。現在、大勢力ある卸賣協會の直接の先驅者であつたばかりでなく、各地の協同組合員に和一連帶の觀念を與へ、彼等が援助と忠言とを受け得べき源泉を供給してその努力に整調あらしめ、全國を通じて協同組合理想の普及とその具體化の促進に少なからず役立つた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一八五二年一月十六日、ウイリアム●カンニンハム William Coninghamのところで一つの集會が催うされ、協同組合聯盟の組織について協議が行はれた。カンニンハムは、これまで短からぬ間、クリスト教社會主義者達を友とし善かつた人で、設立者協會の月次會の席上、嘗て『パリに於ける協同組合』なる題の下に講演をしたことがあつた。この協同組合聯盟の目的は、協同組合の原理に興味を有する人々の間に連絡を進め、これに關する智識普及の中心を形り、書籍記錄を蒐集し、又、全國の協同組合と親しく接觸するにあつた。すべて此等の事は、ある程度まで、ニール及び中央協同代理店が既に實行してゐたところである。この企圖に衷心より共鳴して來り投じたクリスト教社會主義者が五六名あつた。最初の集會は五月三十日(一八五二年)に催うされたのであるが、その席上、ニールは本聯盟の目的事項及び趣旨について一篇の論文を讀んだが多數の聽衆の贊同を得られた。本聯盟は、社會の輿論を喚起し、かねて、專門家の報告を紹介するに、大いに役立つた。

また、同年六月下旬には、協同投資會社を、株式會社法により、十萬ポンドの資本金で、設立せんとする目論見が、同志の間にあつたのであるが、これは實現されずにしまつたらしい。

この頃、設立者協會の集會の方法にも變更があつた。クリスト教社會主義運動の初期に於いては、將來の方針、事業の選擇などすべて、同志達と勞働階級代表者達とがクランボーン●コーヒー店等で開いた協議會の決定するところであつたが、設立者協會及び協同組合の組織を見てからは、かうした公開の集會を廢止して、その代りに、會員及びその知友に限つて、協議會や講演會が催うされ、前よりも自由に論議を戰はし得るやうになつた。しかし、これは、協會以外の人々の不平を招いたので、

中止せざるを得なくなり、啓蒙運動の必要と彼等の方策に對する世間の批判に聽く値打を考へて、彼等は再び公開の集會を開くことにした。幸ひ、キャッスル街の同志の建物に適當な部屋があつたので、會場をそこにきめて、三月十日（一八五二年）新組織の第一回集會を開催した。ショーターがこの會の書記を託され、隔週に開會を續行したが、出席者多數に上り、非常な興味をもつて迎へられた。有名な社會主義者や社會改良家も何人か來會して講演した。憲章（チアーチスト）運動の驍將オーブリエンもその中にあつた。

この集會は、實質より見て、協同組合員の全國大會の先驅をなすものといふことが出來た。スラネー法令の通過を機會に、生産、消費の區別なく協同組合事業に事實たづさわつてゐる全國すべての團體の代議員會を召集して、新法令に對する最善の方策及びその祝賀會についての準備を協議してはとの意見が、設立者會議に提出され、その結果、六月十七日、特別委員會の決議を見、同月二十六、二十七日の兩日、遂に正式に全國代議員協議會がキャッスル街の協會々館で開催されるにいたつた。出席代議員二十五名にして、代表されたが合數二十八ケ。尚、協議會々報によれば、旅費の工面がつかなかつた爲めに缺席したのであるとの陳謝狀をよこした者が可なり多數あつた。協同組合運動の牙城は言ふまでなく、北部地方にあつたのであるが、彼等の多くは、創立後年所を經て居らず資金も貧弱であつた。しかし五六のものは設立者に對する反感から出席しなかつたやうである。

リヴアプールのヘンリースミスが議長に選ばれた。議題の主なるものは、協同組合運動統制のために協同友愛會の設立協同組合收益の一部を資本化し又一部を減債基金の積立に充てんとする希望、共

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

通規則の採用、協同組合員の機關新聞の發行等であつた。執行委員が選任され此等の諸件を處理すると共に、引續き毎年この種の集會を開催する準備を調へることになつた。一八五三年の大會開催地には、マンチエスターが選まれた。

協議會第一日の夕に、催うされた祝賀會は、協議會に對する歡迎と、設立者協會の記念祭との二重の意味があつた。前年の記念祭は、セントマルテイン會堂で行はれ來賓の數も三百を算したに過ぎなかつたが、今年は會場も協會自身の會館が之れに充てられ參列者は、約倍加した。更に注目に値したのは、前年の來會者の信じがたいまでに、協同組合員達が整つた服裝を着け、裕福になつてゐたことである。會は先づ「肉料理附の茶」に始まり、次いでモウリスに、銀製のインキ壺純金のペン及び勞働者達の署名した頌德文を贈る式が擧げられた。それより講演にうつり多數の者が演壇に登つた、ルイブランから送られた英文の式辭も朗讀された。最後に裁縫工組合の舞踏があつて、會はめでたく閉ぢられた。

協議會の決議第一項を見れば、各地の協同組合員がキリスト教社會主義者に對して、如何ばかり尊敬の意を表してゐたかゞわかるであらう。設立者協會員はその決議により協同組合諸團體に、スラネー法令に從つて、登記することによつて得られる筈になつてゐる利益についての說明文を起草することを依囑された、これは一八五二年九月に脫稿されたが、これと共に同じく前記法令の要求により、產業團體の模範規則も協會員の手によつて、編まれた。彼等は幾何もなく協同節約團體のための同樣な記述を起草した從來少なからぬ法律上の不利と、惡戰し來つた各種の協同團體は、此等を準則として登記を經ることが出來、彼等の運動全局が、クリスト教社會主義者を、公然その指導者乃至伴侶として、玆に初めて確然たる基礎に置かれるにいたつたのである。クリスト教社會主義者より見てもその協同組合運動に對する努力中、最高調を示したものは、思ふに此の全國代議員協議會の開催であつたであらう。當時、同志は數に於いて勢力に於いて異常な增大を示してゐた。（つゞく）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

謹告

拜啓　同人機關誌『光』は從來東京宣光社名義にて發行致居候處今度宣光社の組織を改め發行及編輯の事務分擔を左記の通りに變更いたし候間さやう御諒承たまはりたく此段謹告仕候　頓首

大正十四年二月

伊藤猛　西田天香
西田保太郎　小此木渾沌
中桐確太郎　松下吉衛
（いろは順）

京都市烏丸頭小山下總町五
回光社內
發行兼印刷人　西田保太郎

東京市本所區林町二ノ七八
振替　大阪五五九八三九　東京五七六七一九
編輯人　松下吉衛

附記
誌代は　京都市　回光社へ
玉稿は　東京市　松下吉衛へ

編輯人から

本誌わ一燈園の同人光友の機關誌たると共に、一燈園生活そのものに對する自由眞摯な評壇たる使命を擔いたいと思います。もとよりこれ論を好むがためにあらず、吾等が本願の成就を祈ればのこと。されば、掲載記事に對する異見わ皆さんから腹藏なく發表していたゞき、私共の生活を、この方面からも錬りに錬つて、獨斷論に禍されることのない生命力の漲つたもの、最も嚴正な意味の批判に堪えるものに磨き上げ、人類愛の生活化と社會的正義の確保と兼ねて文化諸相の調整とに聊か貢献したいと願つています。（松下）

定價　一ケ月分　金二十錢（郵稅共）　一ケ年分　金二圓四十錢

大正十四年六月十日印刷納本
大正十四年六月十五日發行（第四十二輯）

京都市烏丸頭小山下總町五
回光社內
發行兼印刷人　西田保太郎

東京市本所區林町二ノ七八
編輯人　松下吉衛

京都市烏丸頭小山下總町五番地
發行所　回光社
振替　大阪五五九八三九　東京五七六七一九

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

光の友パンフレット

No.1 入　牢　の　心　を（西田天香著）12錢

No.2 時 代 苦 を 苦 し む（松下吉衞著）20錢

No.3 復興改建の精神的基礎（中桐確太郎、小此木渾池著）[illegible]

No.4 一 燈 園 生 活 問 答（松下吉衞著）近刊

發　行　所

働　く　者　の　家

東京●本所●林町二ノ七八

〔送 金 郵 劵 結 構〕

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN